



校長室だより No. 13
(平成 27 年 11 月 11 日)



泉大津市立上条小学校
校長 松田 義広

<http://izumiotsu-ed.jp/e-kamiyo/hp/>

ホームページが、20000 アクセスを達成しました。

紅葉の美しい季節となりました。

今月は就学時健診(13日)、連合音楽会(18日)、休日参観(21日)や小中連携の行事等が毎日のように続きます。行事等の様子は、できるだけお伝えするように努めていますが、その1つであるホームページのアクセス数が9日に20000アクセスに達しました。今後も学校でのお子様の様子などを伝えるツールとして活用いただけますよう充実させてまいります。



平成27年度全国学力・学習状況調査について

今年4月21日(火)に6年生を対象として全国学力・学習状況調査を実施いたしました。本校の概要をお知らせします。

本調査だけで子ども達の学力や学習状況の全てがわかるわけではありませんが、『よくがんばっている』と評価でき、6年生の学力のばらつきも小さかったと言えます。その要因としては、次の項目が考えられます。勿論、保護者の皆様の本校学校教育へのご理解・ご協力が根底にあります。

- ・素直な態度で勉強する意欲・関心を高く持ち、落ち着いた学習環境で学んできたこと。
- ・宿題を真面目に取り組んできたこと。
- ・学校全体で取り組んできた「ぐんぐんプリント」などで、基礎学力(漢字・計算)定着への成果が現れたことや「問題解決型学習」などで、深く考える力・書く力を養ってきた成果が現れたこと。
- ・最後まであきらめず取り組む姿勢や、やればできるなどの自己肯定感が高かったこと。
- ・全員が参加できたことから、健康に留意できていること。

国語 A 区分(知識・技能)については、国平均には少し及びませんでした。漢字など、[言語についての知識・理解・技能]の観点項目で確実に得点できましたが、[話すこと・聞くこと]の観点項目、[読むこと]の観点項目では、さらに理解が必要でした。

国語 B 区分(活用する力)についても、[書く]の観点項目では、十分な得点を得られず、国平均には少し及びませんでした。努力しました。

国語は、改善傾向ですが、話の内容に対する聞き方の工夫・必要な情報の読み取り方・目的や

意図に応じて整理しながら書くことなどに課題があります。

算数 A 区分(知識・技能)については、国平均を上回り良い成果を出しました。特に計算においては、十分得点することができました。

算数 B 区分(活用する力)についても、国平均を上回り成果を出しました。

算数は、基礎的な定着が認められますが、今後も正確な基礎計算力の向上を継続することがのぞまれます。また、比較量・割合の関係をとらえ基準量を求めるような問いへの意識が求められます。

理科については、国平均を下回りました。[自然事象についての知識・理解]の観点項目には一定の評価はできますが、[観察・実験の技能]の観点項目には大きな課題があります。

理科は、国語・算数に比べ、今回は明らかに学習努力がたりなかったと言わざるをえません。

次に学習状況調査について、全国と比べての本校の傾向です。

- ・朝食の摂取率は変わりませんが、起床・就寝の時刻が一定していない傾向があります。
- ・自己肯定感が高く、友達の話最後まで聞いてあげることができるのですが、友達の前で自分の考えや意見を発表することを得意と思っていない傾向があります。
- ・携帯機器やテレビゲーム、テレビ等の使用時間については、多い傾向にあります。
- ・家庭学習については、平日及び休日共に時間が、かなり少なく、自分で計画を立てて勉強をしていない傾向にあります。学校の宿題をきちんとすることができているが、学校の授業の復習や予習をされていない傾向もあり、家庭学習が宿題だけになっている児童が多いのではと思われる。
- ・学校に行くことは楽しいと思っている児童が多く、学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあった児童が多くいる一方、地域行事や地域での出来事や社会のニュースに関心がない傾向にあります。

今回の結果は、学力が向上してきていることを示すデータと言えますが、まだまだ楽観できる状況とは言い難いです。理科の結果をみても、本当に定着した学力が備わっているわけではなく、今後も『不断努力』が必要不可欠です。大阪府の小学校学力平均は、今年も全国平均を大きく下回っていますし、学習状況調査でも多くの項目で厳しい状況を示しています。

これからは、今以上に地域・家庭・学校間の連携、さらには就学前から中学校までの一貫した連携を強める中で、より学校力の向上を図り、いっそう児童一人ひとりの進路選択肢が広がるような豊かな人間性を育める学校・地域になればと思います。

休日参観(21日)の日程について

児童登校時刻	8時30分
参観授業	9時～9時45分
防災イベント	10時～12時30分 (※ 詳細は後日、お知らせいたします。)



【裏面に続く】

夏のポロシャツについて

昨年度、アンケート調査に基づき、平成28年度より導入が決定され、PTA実行委員会にて最終決定いたしました新たな夏のポロシャツを21日の休日参観にて展示いたします。(昨年度はベースとなる見本展示をいたしました。)

販売につきましては、新年度に間に合うように製造を依頼しております。

但し、今までの夏服を引き続き着ていただくことは可能です。販売店でも在庫がある限り販売されます。移行期間として6年間を考えています。詳細につきましては、順次お伝えいたします。



- ・生地 ウォーターマジック
- ・襟 別生地に2本線
- ・左胸に上條小の校章を襟の線と同色でフロッキーマークする
- ・販売予定価格
サイズ 120～140 3,050 円
サイズ 150～160 3,160 円
サイズ 165～175 3,400 円

【上條今昔話】

上條校区の歴史～助松地区の歴史①～

上條小学校区は綾井、末広町、助松団地、助松町、森町、臨海町に広がっています。今回から校区の歴史をご紹介します。

最初は助松地区の歴史についてです。助松の名が記録にみえる最初は、河内長野市にある真言宗御室派の古刹、天野山金剛寺に残る建武2年(1335)の「日置道正寄進状」です。日置道正という人物が、「泉州助松沙弥道正」の名で、御影堂に白錫製の蠟燭台1対を寄進していることが記録にみえます。日置氏はもともと大和国葛上郡日置郷を本拠とした古代氏族ですが、その子孫は全国に広がりました。

次いで、応永7年(1400)の高野山金剛峰寺領荘園の書上には「高石下条并助松宝性院領」(勸学院文書)と、助松の地名がみえ、この頃の助松地域が高野山の塔頭寺院であった宝性院領であったことがわかります。

文明5年(1473)の葛川文書(京都大学文学部国史研究室蔵)には、助松新右衛門尉貞勝という人物の名がみえ、助松氏が泉北地域で勢力のあったことがうかがえます。その後の文明16年(1484)、和泉上守護であった細川元有による文明の惣国一揆(在地武士が守護など上層部の支配を排除して、泉州地域の支配を行った出来事)鎮圧で、助松氏は所領を没収され、その勢力を失いました。

(泉大津市教育委員会生涯学習課に資料提供して頂き掲載しています。)